

日に324工場（19万3924人雇用）が14～60日、休業したが半数が再開とのまとめ。

4月には、プノンペン市庁は、新型コロナウイルス感染予防のため、クメール正月に帰省し首都に戻る縫製工場労働者、672工場の1万5726人を、37校699教室に14日間隔離する方針。全員、新型コロナウイルス検査を受け、陽性は医者がすぐに保健省ホットライン115に知らせる。正月休暇の許可を事前に工場から得ていた労働者は隔離中、有給となる。クメール正月休暇は延期されたため、労働者の9割は通常通り、働いていた。HS首相はfacebookで国民の理解と協力に感謝し、労働者に健康に気をつけ、ウイルス感染予防のためマスク着用と頻繁な手洗いをし、特に多くの乗客とトラック荷台に乗車する時に気をつけるよう、アピールした。

4. 教育

学校再開は、原則、年末まで延期。カンボジア教育省は幼稚園・小中高のeラーニングTVプログラム放映を4/20から開始。休校中に全国的に都市だけでなく地方の生徒も視聴できるように、24時間放映し、朝8時から夜中まで放映後、夜中から朝8時まででは再放送。

5. シュムリアップの観光業

シュムリアップ州によると、5月の観光客数は1776人で、14万人以上が訪れた前年同月に比べ、98.77%減少した。

同州によると、現在までに廃業したホテルは18か所、ゲストハウスは96か所に及ぶ。また、一時的に営業を休止しているのは、172のホテル、99のゲストハウス。州内で8000人以上の雇用を創出している観光業に、深刻な影響が出ているという。

6. 外国人の入国（この項は在カンボジア日本大使館HPより）

現在、次の入国規制がある。

- ・観光ビザ、e-visa、アライバルビザ（到着時に空港で入手できるビザ）の発行が停止される。
- ・カンボジアへの渡航を希望する者は、海外のカンボジア大使館・総領事館等で、事前にビザを取得しなくてはならない。
- ・カンボジア入国の72時間前以内に保健当局から発行され、かつPCR検査に基づいて作成された新型コロナウイルスに感染していないことを証明する英語の健康診断書を提示しなくてはならない
- ・カンボジアでの滞在期間をカバーし、治療費の保険金額が5万米ドル以上の保険証書を提示しなく

てはならない。

入国時の防疫措置としては次。

- ・カンボジアに入国する全ての渡航者（カンボジア人を含む）は、到着時に検査を受けるとともに、検査の結果が出るまでの間、カンボジア政府が指定する場所で待機する。
- ・検査の結果、同一フライト等の乗客の中に1人でも陽性者が確認された場合は、その乗客全員が、カンボジア当局が指定した施設での14日間の隔離対象となる。
- ・同一フライト等の乗客全員の陰性が確認された場合は、地元当局及び保健当局等の観察下において、自宅等での14日間の自主隔離が求められるとともに、隔離13日目に再度検査を受けなければならない（自主隔離期間中のカンボジアからの出国は不可）。
- ・この防疫措置で生じる費用は、自己負担となり、これらの費用の支払いに充てるために、カンボジア到着時に指定された銀行に最低3,000米ドルをデポジットとして預け入れなければならないとされている。

7. 関連情報

非常事態下国家管理法（The Law on the Management of the Nation in Emergency）が、4月29日成立し、公布された。非常事態下の公共秩序の維持を目的に、移動や集会、就労の制限、施設の閉鎖、情報の監視などができ、通信傍受や報道の検閲に加え、安全保障を揺るがす情報の発信阻止も可能となる。

カンボジア国家/中央銀行は5月27日、1米ドル、2米ドル、5米ドル紙幣を受取らない方針とする考えを明らかにし、銀行・マイクロファイナンス組織に6月1日～8月31日（調整の可能性あり）の間は手数料無料で受け取ると伝えた。小さい米ドル紙幣の流通は禁じないとしながらも、リエル紙幣流通促進につながると思われる。

なお、カンボジア政府保健省のコロナ関連の会見などは、次の人々が担っている。

Mam Bun Heng、Health Minister

Ly Sovann、director of the Communicable Disease Control Department

York Sambath、a Health Ministry secretary of state

Or Vandine、Ministry spokeswoman

Li Ailan、WHO country representative

II SUMH カンボジアからの活動報告

SUMH カンボジア バナック・クロウチ

A Report from Siem Reap, SUMH-Cambodia

Vannak Krouch

SUMH Cambodia have had many activities, especially, one of them home visit is so important to support the client at home now. Why is it so important? During home visit our work is focus on three factors biological, psychological and social factor. We worked so close with the patient and their families. They were welcome us and happy to have our present at their home. They can have a chance to know more about mental illness, how to help and how to intervene their mental family member on time.

I would like to introduce some story about her illness. Ms. A is Female aged 30 years old. Her illness was on set 1 month before come to get treatment in Siem Reap hospital on 21 November 2016. Her last medication was Chlor₁₀₀ ½*1, T₅ ½*1, Ami₂₅ ½*1 by 16 January 2020. Ms. A's complaint was to hear the voice, see the ghost, become sleepless and thin, lose appetite and sometime, went to play with children.

After 1-month treatment and intervention through our home visiting her illness was better. Her father is one of the main care givers I ever seen, he came to Siem Reap hospital together for the medication by the doctor prescription and has joined the center activities of SUMH in the hospital. Nowadays, Ms. A can know every family member, she can help to take care her sick mother, take care her niece and nephew for her sister. She can do some household like boil rice, cooking...etc.

Through SUMH Cambodia were supported, many patients got better from their illness. They can go back to work, help to do some household activities, can communicate with the family's member, can join the ceremony in the village. We also work and cooperate with the authority, OD, health center, Commune to provide the new information for mental health illness for behavior change with the mental patient. Nobody throws the stone, hit, laugh, look down the patient like before. When people here heard about mental health illness like Schizophrenia their feeling are normal, they also gave food and offered a job if they in need.

(日本語要約)

SUMH カンボジアが行ってきた多くの活動のなかでも訪問活動は重要です。私たちは生物学的、心理的、社会的要因に着目し、患者やその家族と親しくなり、精神疾患や、どのように援助すればよいのかを知ってもらっています。

SUMH のサービスを利用している B さん、30 歳の女性を紹介します。2016 年に統合失調症を発症し、幻聴が聞こえる、幽霊が見える、睡眠不足、やせ、食欲不振などの症状がありました。クロルプロマジンなどの薬物療法が開始され、SUMH の訪問が開始されると、彼女の症状は徐々に改善しました。主な介護者の一人である父親がシエムリアップ州病院に薬を一緒に取りに来て、そのたびに SUMH のデイセンターの活動にも参加しました。最近では、B さんは家族全員の顔がわかり、病気の母親や姪・甥の世話できるようになりました。また、ご飯を炊いたり、料理をするといった、一部の家事もできるようになりました。

SUMH の支援を通じて、たくさんの患者がよくなりました。仕事に戻ったり、家事に参加したり、村の行事にも参加できます。また、SUMH は保健区や、ヘルスセンターなどに対し、精神疾患のある患者の理解のために新しい情報を提供するなどしています。今は、以前のように患者に石を投げたり、笑ったり、見下すような住民はいなくなり、統合失調症をもつ住民に対して普通の人として接するようになりました。



写真: 安定した生活を送る A さん(右側)と父親(写真掲載許可、有)

*現在、SUMH カンボジアは新型コロナウイルス感染症の影響を受け、クララン保健区病院の外来診療への医師の派遣の中断を余儀なくされています。今後、流行状況に留意しながら、外来診療のできるだけ速やかな診療再開を検討しています(編集)。

III 西アフリカの精神保健事情

丸谷俊之

本会の活動と関係するものではないですが、2019年1月に西アフリカのガンビアとセネガルの精神医療事情を視察する機会がありました。ガンビアは、公用語は英語で、ガンビア川に沿って東西に480km、南北方向には48kmしかない細長い領土で、大西洋に面した部分以外の国境線はすべてセネガル(フランス語圏)に囲まれています。

ガンビアは人が穏やかで過ごしやすいところでした。人口は203万9,000人に対して、臨床にかかわる精神科医はガンビア人のレジデント1名とキューバから派遣の医師のみでした。ガンビアは7箇所の保健行政区に分かれ、保健医療体制は設備の整っている順に病院、ヘルスセンター、ヘルスポストの3段階で構成されています。下位の医療機関で対応できなければ、より上位の医療機関にリファーされる仕組みになっており、それはカンボジアと同じです。精神科病院は首都にタンカ・タンカ病院があり、使用可能な抗精神病薬は、ハロペリドールとクロロプロマジンが主で、フルフェナジンのデポ剤もよく用いていました。外国からの援助で作業療法プログラムが行われていましたが、レジデントのジャン医師はよい評価をしていませんでした。診断としては、薬剤性精神病がもっとも多く(54.7%)、次いで統合失調症(34.2%)でした。

今後の国のメンタルヘルス施策については、公衆衛生研究開発センターで作成されていました。今後の計画の最大のポイントは、各地域に地域精神保健を担う中核となる精神科看護師を配置し、ヘルスセンター、伝統治療師、学校、村、警察と連携をとり、家庭訪問も行い、地域精神医療を充実させることです。現状は、メンタルヘルスの優先度が低く予算がないので、アウトリーチのためのバイクなどはまだ供給されていませんでした。

イスラム教の伝統治療師(マラブー)にも会いに行きましたが、我々が到着すると皆集まってきて、以前の医療機関では良くならなかったが、ここに来て良くなった、とロ々に語りました。コーランに基づいた治療を行っています。ガンビアでは、伝統治療師と医療機関とがいかに連携を取るか、について考える必要があります。

それに対して、隣国セネガルのダカール郊外にあるチャーロイ精神科病院の院長は「伝統治療師は何をやっているか明らかにしないから、検証のしようもなく、意味がない」と、きっぱりと否定的意見を述べていました。ガンビア国内でも伝統治療に否定的な意見があります。しかし、ガンビアの精神科では、薬物療法が主で、精神療法をしている時間的余地はなく、その部分は伝統治療が担うのだらうと思われました。それは、フランス精神分析や民族精神医学の影響を受け、精神科医療にも精神療法の素地があるフランス語圏アフリカとは異なる点でした。

(この訪問のより詳しいレポートについては、「こころと文化」19巻2号(2020年2月)をご参照ください。)

IV 総会開催のご案内

2020年9月13日(日)、SUMHの2020年度総会を行います。今年は、今般の新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、対面式ではなく、Web上での開催となる予定です。

追って、会員のみなさまにはお知らせいたしますので、案内をご覧ください。関心のある方・ご都合のつく方は総会へご出席いただけますと幸いです。

SUMHの会員として、また寄付金によって一緒に途上国の精神保健を支えてください。

カンボジアの患者さんの笑顔を思い浮かべ、当法人にご寄付頂けますようよろしくお願い申し上げます。

【年会費】一般 10,000円 賛助・学生 3000円

【会費・寄付金の振込先】

銀行振り込みの場合

銀行名: 楽天銀行 第二営業支店(支店番号 252)
口座名: 特定非営利活動法人 途上国の精神保健を支えるネットワーク
口座番号: 普通 7385345

郵便振替の場合

加入者名: 途上国の精神保健を支えるネットワーク
口座番号: 00170-2-535294

郵便振替は振替用紙に、住所・氏名・Tel & Fax・E-mail・会費と寄付金のいずれか・SUMHへ一言を明記の上、お振り込み下さい。

SUMH 日本事務局

〒130-0013 東京都墨田区錦糸3-5-1

錦糸町北口ビル

TEL 03-3812-0736

HP: <http://www.sumh.org>

Mail: info@sumh.org



編集後記

今号は、コロナ禍のカンボジア情勢と現地からの活動報告、ところ変わって西アフリカの精神保健事情について掲載しました。感想をお聞かせください。

COVID-19 対策では脆弱な体制が露見した日本ですが、今回の経験に学び、感染症にも強い日本となりますかどうか。上手く乗り越えたいですね。(編集: 宮本圭)